東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１2年6月29

ベラートの夜

親愛なるムスリムの皆様！

来週の水曜日から木曜日にかけての夜は、神聖なラマザン月の知らせをもたらす、ベラートの夜になります。罪、借金、罰から救われるといった意味を持つベラートは、罪から清められ、崇高なるアッラーの慈悲と恵みに到達することを示しています。ベラートの夜は、ムスリムが崇高なるアッラーに庇護を求め、罪から清められ、神の恵みと豊かさに至るための機会を獲得するための大切な夜の一つです。このような日、夜は宗教的・社会的生活において神の許しや恵みへの希望が頂点に達し、一体化、統一感、兄弟愛が強く感じられるべき時でもあります。こういった夜は、しもべであるという意識、認識で私たち自身を再確認し、アッラーのご満悦にしたがって生きる決意を新たにする機会なのです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。

崇高なるアッラーは、この夜にご自身に心からの誠実さをもって向かうしもべたちに、豊かな慈悲を下され、糧や癒しの扉をいっぱいに開かれ、私たちを限りのない恵みへと招いておられます。預言者さまは次のように言われました。「シャーバン月の第15夜をイバーダで過ごしてください。日中も断食をしてください。なぜなら崇高なるアッラーは、この夜、天空にその慈悲と共に顕れになり、『悔悟する者はいないか、悔悟を認めよう。糧を求める者はいないか、糧を与えよう。病からの癒しを求める者はいないか、癒しを与えよう。願いがあるものはいないか、それを与えよう』と言われるのです」,だから、ベラートの夜を理解する人は皆、崇高なるアッラーが「自分の魂に背いて過ちを犯した**わが**しもべたちに言え、「それでも**アッラー**の慈悲に対して絶望してはならない」**アッラー**は、本当に凡ての罪を赦される。**かれ**は寛容にして慈悲深くあられる。」（集団章第 53 節）という吉報を意識しておくべきです。そのためにも、自らの本性に回帰し、希望を持ち、罪や過ちに対し悔悟し、これ以降の生き方をよりよいものとする決意を強める必要があります。

親愛なる兄弟姉妹の皆さま！

神聖な夜は、信仰、崇拝行為、考えといった点で自らを改め、過去を点検し、将来をアッラーのご満悦に沿った形で計画し、希望を新たにするための、疑いもなく大きな機会です。このような機会には、罪によってけがれてしまった精神世界を清める努力をしましょう。忘れてはいけないことは、悔悟とは自らを見出し、認識し、心を清める最適の手段であるということです。なぜなら崇高なるアッラーは、どのような行為をしてきた人であれ、例外なく皆を悔悟へと招いているのです。だからこそ預言者さまも、常に悔悟や懺悔をなさっておられました。私たちをも、このような夜を、崇拝行為の本髄であるドゥアーによって最も良い形で生かし、罪から清められることをアッラーに懇願し、悔悟や懺悔を行うべきです。

親愛なるムスリムの皆様。この夜をきっかけとして、周囲の人々に対する務めや責任を思い起こしましょう。両親や近親の人々のベラートの夜を祝福し、彼らのドゥアーを得ましょう。不仲な状態、立腹し合っている状態であればそれを終了させ、傷ついた心を癒しましょう。貧困者、困窮者に対し、できる限りの助けの手を差し伸べましょう。分かち合いを生き方にも反映させましょう。時代のもたらす困難さに苦しむ魂、精神世界を軽視したことで苦しむ心に対し、この夜が癒しとなることを願いつつ、皆さんのベラートの夜を祝福し、それが人々の許し、安らぎ、幸福への媒介に、また信者が罪から清められ、許されるためのきっかけになることをアッラーに懇願いたします。